サーチライト　With Pastor Jon　創世記 15 章　パート 2　1998.01.21

興味深いことに、主は「あなたの子孫は、天の星のようになる。」（創世記 15:5）と言われましたが、創世記 32 章でも同じことが書かれています。
「あなたの子孫を、多くて数えきれない海の砂のようにする。」（創世記 32:12）
神が創世記 15 章と 32 章で相互関係を作られたのです。

でも待って下さい。
私が更にワクワクしたのは、アブラムの子孫が空の星のよう、海の砂のようになると言われたことだけではありません。
砂といえば、これを見て下さい。
詩篇 139:17-18
17 神よ　あなたの御思いを知るのは　なんと難しいことでしょう。
そのすべては　なんと多いことでしょう。
18 数えようとしても　それは砂よりも数多いのです。
私が目覚めるとき　私はなおも　あなたとともにいます。
皆さん、これはものすごい数の御思いですよ。とても尊い御思いです。

更に気づいたことで、本当にビックリしたのが、ペンティアム 2（PentiumⅡ）のコンピューターチップ。
これが何で出来ているか知っていますか。
基本的にはシリコン。砂で出来ています。
そして、今どきの精巧なコンピューター技術は、1 秒間に 1 兆の計算が可能なんです。
1 秒間に 1 兆の計算！　ものすごい速さ。
そこで、砂を取って、ペンティアムのコンピューターチップに当てはまるものを形作り、それら何億兆というコンピューターチップの数に、それぞれ 1 秒毎に 1 兆を掛けて下さい。
いくつになりますか。
「あなたに対するわたしの思いは、砂の数のように数えきれない。」
主が大昔にこの表現を選ばれたというのは、とても興味深いことです。
今や、砂・シリコンはコンピューターの記憶と計算の鍵となっているのです。すごいですね。

それはともかくとして、主は言われました。
「アブラム、あなたに子孫を与えよう。
あなたが今、空の星を見上げて考えられるよりもはるかに多く。あなたの目で見えているよりもずっと多く。
言っておくが、あれよりももっともっと、ずっと多くの子孫。わたしはあなたを祝福する。」

それは、6 節に書かれています。
ここはよく知られている箇所でもあり、聖書を学ぶ人にとって、正真正銘、鍵となる節です。
使徒パウロはローマ書 4 章、ガラテヤ書 3 章で、私たちの救いがどのようになされるのかを、この節を基に説明しています。
創世記 15:6
アブラムは主を信じた。それで、それが彼の義と認められた。
アブラムは約束を聞き、神を信じました。

主は、「あなたがわたしをただ信じたから、わたしは今、あなたに義を転嫁しよう。
あなたがわたしをなだめたためでなく、わたしを喜ばせたためでもなく、単にわたしを信じたからだ。」

あなたが話をする人の多くが誤解しているでしょう。
「神の目に義と映る人間になるためには、神をなだめなければならない。」「神を喜ばせなければならない。」
違います。
神は言われます。「もしあなたが信じるなら、あなたは義となる。」
「信じるなら」これがローマ書のメッセージです。
だからパウロは、ローマ書 4 章でこの表現を用いたのです。ガラテヤ書 3 章でも。
これは、鍵となる枠組み、描写なのです。

アブラムはどちらかといえば文句を言い、愚痴っていたのに、神は「あなたを大いに祝福しよう。」
彼は「えぇ！　そうなんですか！」
神は「ただあなたが信じたから、わたしはあなたに『する』と言ったことをしよう。
今、わたしはあなたを義とみなす。」
神が「する」と言われたこと、すなわち「あなたのために神の御子を死なせて下さった」ということを信じるなら、あなたもまた義とみなされます。

ヨハネ 6:28-29
28 彼らはイエスに言った。「神のわざを行うためには、何をすべきでしょうか。」
29 イエスは答えられた。「神が遣わした者をあなたがたが信じること、それが神のわざです。」
イエスは、「ただ信じるだけ。これが神のわざだ。」と宣言されました。
神を喜ばせることでもなければ、神をなだめることでもない。
神を信じること。
そうすれば、あなたも義となるのです。

「義とは何だ？」
ヘブル語で「義」は「正しく衣を着せられた」ということ。
これが、義の文字通りの意味です。
アダムとエバが罪を犯した時、自分たちが裸で、服を着ていないことに気づきましたね。
そこで、彼らはいちじくの葉で服を作りましたが、出来たのはチクチクする服。
上手くいきませんでした。
彼らは、初めは服を着ておらず裸で、それから間違った服を着ていた。
そこへ神が来てその状態をご覧になり、そして、神は動物を犠牲にして彼らに正しい衣を着せました。

これは、神が私たちにして下さることの強烈な描写です。
私たちが正しい衣を着るために、神は御子を送って下さった。
御子は犠牲の子羊として、私たちの代わりに死んで下さったのです。
私は主にあって大いに楽しみ、私のたましいも私の神にあって喜ぶ。
主が私に救いの衣を着せ、（私が自分で着るのではありません）正義の外套をまとわせ、（イザヤ書 61:10a）
これが、神があなたにして下さったことです。
あなたがそれを真実だと信じるなら、神はあなたを義とみられるのです。

主があなたに救いの衣を着せ、正義の外套をまとわせました。
そうでなく、もし自分で衣をまとうなら、
私たちはみな、汚れた者のようになり、その義はみな、不潔な衣のようです。（イザヤ書 64:6a）
アダムとエバがしたように自分で衣をまとおうとしても、あなたが得るものはチクチクして上手くいきません。

義という考えは「正しい衣をまとう」ということ。
どうすれば、そんなことができるのでしょうか。
それは、自分で衣をまとわないことです。
ただシンプルに言うのです。
「主よ、分かりました。私に、あなたの義を着せて下さい。」
「救いの衣を、私に着せて下さい。あなたがキリスト・イエスを通して与えて下さいましたから。」
それをただ単純に信じる。
「信じる」のヘブル語は、「アーメン」という言葉が語源です。
「アーメン」とは「その通りになりますように」
「頑張ってそれを得よう」ではなく、ただ、「そうなりますように」

義という転嫁された救いは、神が私に下さった賜物です。
それで私は世界一のベストドレッサー。
義の衣を着るのですから。救いの外套をまとうのですから。
皆さんも同じです。信じる人は一人ひとり皆そうです。
これは素晴らしい賜物ですね。こんな計画を誰が考えつくでしょう。
「ただわたしを信じ、わたし自身を、わたしが成し遂げたことを信じなさい。」

神がこれを考え、イエスがこの義を支持した。
御父がそれを考え、御子が支持し、御霊が教えた。
御言葉がもたらされ、サタンがそれと戦った。
しかし、私たちが受け取った。
これが事実です。
皆さん、私たちがそれを受け取りました。
私たちは成功の衣を永遠に着せてもらいました。
イエスの義を着せてもらったのです。
主が私たちのためにして下さったことが全てです。

創世記 15:6-8
6 彼（アブラム）は主を信じた。それで、それが彼の義と認められた。
7 主は彼に言われた。
「わたしは、この地をあなたの所有としてあなたに与えるために、カルデア人のウルからあなたを導き出した主である。」
次のこれを見て下さい。
8 アブラム（信仰の父）は言った。
「神、主よ。私がそれを所有することが、何によって分かるでしょうか。」
アブラムに親しみがわきませんか。

これは私であり、これはあなた。私たちも度々こんな風になります。
彼は天を見上げ、信じました。
しかし、その信仰の深さはどれほどのものだったでしょう。
「主よ。どうして、それが分かりますか。」
つまり、「私はあなたを信じます。」と言って、それからマルコ 9 章の人のように、
「信じます。（だけど）不信仰な私をお助けください。」（マルコ 9:24）

私なら、神はこの時点で、いい加減疲れてうんざりしてくると思います。
初めに神は言われました。
「わたしはあなたの盾であり、わたしはあなたの報いである。あなたにはわたし以外に何も必要ない。」
すると…「でも主よ、私に何を下さるのですか。」
「よし。わたしはあなたに子を、それも空の星のように数えきれないほどの家族、子孫を与えよう。」
「主よ、それを信じます。でもどうすれば、そうなると信じられますか。」
私なら…、もし私が神なら「アブラムよ、これまでだ。バイバイ。」

しかし、私たちの御父は違います。
皆さん、これは、私とあなたに語られていることですから理解しなければなりません。
アブラハムのような信仰の巨人であっても、疑いと葛藤したのです。
まさに私のように。
でも、神はアブラムにイライラしたり、彼から離れたりしませんでした。
「証拠が欲しいのか？ 分かった。それなら契約を結ぼう。」

創世記 15:9-21
9 すると主は彼に言われた。
「わたしのところに、三歳の雌牛と、三歳の雌やぎと、三歳の雄羊と、山鳩と、鳩のひなを持って来なさい。」
10 彼はそれらすべてを持って来て、真っ二つに切り裂き、その半分を互いに向かい合わせにした。
ただし、鳥は切り裂かなかった。
11 猛禽がそれらの死体の上に降りて来た。アブラムはそれらを追い払った。

12 日が沈みかけたころ、深い眠りがアブラムを襲った。そして、見よ、大いなる暗闇の恐怖が彼を襲った。
13 主はアブラムに言われた。
「この地をあなたが所有することが確かであると知りたいか？ なら、これを知っておきなさい。」
「あなたは、このことをよく知っておきなさい。
あなたの子孫は、自分たちのものでない地で寄留者となり、四百年の間、奴隷となって苦しめられる。」
14 しかし、彼らが奴隷として仕えるその国を、わたしはさばく。
その後、彼らは多くの財産とともに、そこから出て来る。
15 あなた自身は、平安のうちに先祖のもとに行く。あなたは幸せな晩年を過ごして葬られる。
16 そして、四代目の者たちがここに帰って来る。
それは、アモリ人の咎が、その時までに満ちることがないからである。」

17 日が沈んで暗くなったとき、見よ、煙の立つかまどと、燃えているたいまつが、切り裂かれた物の間を通り過ぎた。

18 その日、主はアブラムと契約を結んで言われた。
「あなたの子孫に、わたしはこの地を与える。
エジプトの川（ナイル川）から、あの大河ユーフラテス川（現在のイラン、イラク）まで。
19 ケニ人、ケナズ人、カデモニ人、
20 ヒッタイト人、ペリジ人、レファイム人、
21 アモリ人、カナン人、ギルガシ人、エブス人の地を。」

ここで起こったことが、素晴らしく描写されています。
「どのようにすれば、知ることができますか。」
「アブラム、証拠が欲しいのか。では今日、証拠を見せよう。あなたと契約を結ぶ。
牛と子羊とやぎを持って来て、真っ二つに切り裂きなさい。」
これは当時、実際に行われていたことでした。
2 人が真剣に契約を締結する時、弁護士なんていませんでしたから。
そこで動物を持って来て、真っ二つに切り裂き、2 人はその死骸の間を歩いて来て中央で会います。
その場で、彼らは立ったまま互いの手首をしっかり握り、これから行うことに合意し、契約を宣言するのです。

これはかなり重苦しい光景ですよ。
死んだ動物がそこにあって、2 人が言うのです。
「我々は、これに関して死ぬほど本気だ。牛の真ん中にいるが、戯言ではない。」
「言っておくが、そちらが責任を果たさないなら、約束を守らないなら、この牛のように死んだ肉になる。」
これはかなり残酷で強烈な光景です。
2 人の人間が手首を握り合って、互いに約束を口にするのです。
死ぬほど本気で。

ということで、アブラムは「はい。証拠が欲しいです。契約をするのですか？ いいですねぇ！」
そうして動物を持って来て、真っ二つに切り裂き、何時間もただひたすら待ち続けました。
猛禽が夕食の時間だと気づいて降りて来ます。
アブラムは自分の役割を果たすため、必死でそれらを追い払い、疲れ果てて眠ってしまいました。
起きていようと頑張って、自分の分を果たそうとしましたが、深い眠りに入ってしまった。
神が夢の中で彼に語られたのは、その時です。
この言葉がすごい。
神は眠っているアブラムに「アブラム、次のことを知っておきなさい。」
「あなたは壮大な国を持つようになる。
しかし、人々は下って行き、400 年間奴隷となって大変な経験をする。」
13 あなたの子孫は、自分たちのものでない地で寄留者となり、四百年の間、奴隷となって苦しめられる。

ところで、預言を学んでいる皆さん、13 節に 400 年とありますが、16 節にはこう書いてあります。
16 四代目の者たちが（400 年後に）ここに帰って来る。
つまりこの場合、一世代は 100 年。
13 節の 400 年という言葉と、16 節の 4 代目という言葉を比べてみて下さい。
どうして、それが重要なのか。
それはイエスが言われたから。

“The generation that sees the fig tree blossom shall not pass away.
My coming is near even at the very door. ”
「いちじくの木の葉が生じるのを見る“世代”は滅びない。人の子が戸口まで近づいているのだ。」
（マタイ 24:32-34）

いちじくの木はイスラエル国家の象徴で、聖書の中で「いちじくの木」と言えば、いつもイスラエルについてのことです。
では、いちじくの木が葉を生じるとは、いちじくの木に何が起こるのでしょうか。
冬の時期、いちじくの木は、他の全ての落葉樹と同じように死んだように見えます。
イスラエルも死んだように見えました。
国土を持つ実体としての国家は、西暦 70 年に滅ぼされたから。
ローマ皇帝ティトゥスが来て神殿を焼き払い、再建したエルサレムの名を全く変えて“アエリア・カピトリナ”と名付け、「ダビデの町、旧約聖書の話は全て神話で、実在したものではない」と定着させたのです。
彼らは何が何でも、人々の記憶からユダヤ人を消し去りたくて、「エルサレムなんて、未だかつて存在したことがない」と言い広めました。
もちろん、そんなことはナンセンス。
今日、それを信じる人など誰もいません。

つづく

詩篇 145:17-18
17 主はご自分のすべての道において正しく　そのすべてのみわざにおいて恵み深い方。
18 主を呼び求める者すべて　まことをもって主を呼び求める者すべてに　主は近くあられます。

「今日、もし御声を聞くなら、あなたがたの心を頑なにしてはならない。」ヘブル 4:7
メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ
http://joncourson.com/
7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530
訳 by 木下言波
DivineUS：https://www.youtube.com/user/TheDivineUs
筆記 by Rumi

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、目の治療をされました。
どうか、りょくさんの病後の弱さを覚えて、お祈りください。